

まちの景観 学生が描く

名古屋学芸大と三重・熊野市協定

名古屋学芸大(日進)二年度から、熊野市の

市と三重県熊野市は、学「新たな特産品づくり事業」が市の特産品やまちの「業」に参加。協定により景観をデザインする「デ」り、地方創生事業として「デザイン協定」を結んだ。さらに発展させようと、名古屋学芸大は二〇一市が同大に調印を申し入



れた。これまで、メディア造形学部デザイン学科の学生たちが熊野の木材を使ったベンチや市役所職員用のピンバッジなどをデザインしている。

河上敬二市長と井形昭弘学長が四日、協定書に調印。河上市長は「行政はデザインや感性に訴える取り組みが弱い。足りない部分を学生の皆さんに補ってほしい」と期待を表明。井形学長も「大学の力を認めていただき光栄。学生たちの芸術の力を実感した」と話した。学生たちは本年度、市内のバス停の標識や記念撮影用のモニュメントなどをデザインする予定。

デザイン協定を結んだ名古屋学芸大の井形昭弘学長(左)と三重県熊野市の河上敬二市長。日進市の名古屋学芸大で

(堀井聡子)